

実践交流会 1 《多職種連携》

北館 102 教室

第 1 部 <13:40~15:10>

座長 後藤 照代 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C1-1	認知症患者を在宅で診る-他職種連携による早期診断および早期治療の試み-	岩田明	長久手南クリニック
C1-2	あんた、最期は頼んだぜ！ ～かおりを選んでくれてありがとう～	田中導	D r .盛次診療所 デイサービスセンターかおり
C1-3	どうしてもええ～SOS のサイン ～対応困難な親子へのかかわり、信頼関係を築くことが出来た事例を紹介し考察する。	田所由美	D r .盛次診療所
C1-4	薬局薬剤師の地域医療における役割 ～情報提供を介した医療機関や患者との関わり～	門下鉄也	株式会社クスリのマルエマルエ薬局東店
C1-5	利用者の「のぞむ生活」へのサポート ～共通言語からの始まり～	田村博子	医療法人マックス 通所リハビリテーション
C1-6	音楽の力は偉大なり在宅療養支援診療所の音楽療法士の役割	安部ゆかり	訪問看護ハートステーション
C1-7	多職種連携で介護者を支える	秋山紀子	医療法人財団 千葉健愛会 あおぞら診療所高知潮江
C1-8	iPhone を利用した地域他職種情報連携の試み	片山智栄	医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック
C1-9	多職種連携におけるグループウェアの可能性	森辰幸	ケアホーム秋櫻
C1-10	一人暮らしの精神障害者を支える在宅ケア 「自分ができていることが増えていく喜び」	大畠利依子	ハーブ内科皮フ科在宅医療 介護センター 訪問介護
C1-11	調布市内医療機関の訪問診療機能について	西田伸一	調布市医師会
C1-12	施設生活を家族と共に	加藤いつみ	特別養護老人ホーム かわしまホーム

第 2 部 <15:20~17:30>

座長 長縄 伸幸 (理事)

近代野球型から近代サッカー型チームをめざす
～多職種連携・協働から次世代・多職種融合へ～

趣旨：

医療・福祉の連携から融合が求められている現在、多職種連携・協働のチームプレイも進化が求められています。2 部は、少子高齢社会における先人的で効率的な多職種の関わり方を利用者視点で考えたいと思います。

発表者：

- ・「デイケアでのリハビリテーションを生活に反映させる取り組み～第 1 報～」
山本文徳 医療法人 創建会 ウェルネス医療クリニック
- ・「ニーズを実現するための取り組み～実践を通して多職種連携の必要性を考える～」
佐々木穰史 医療法人社団 実幸会 いらはら診療所
- ・「桜が見られますか？ 桜が見たい。～チームケアで支えるターミナルの症例～」
奥村由香理 医療法人 社団 都会 渡辺西賀茂診療所
- ・「地域連携連絡票を用いた多職種連携の実践—新潟県妙高市における 2 年間の取り組み—」
揚石義夫 医療法人社団 揚石医院
- ・「病診連携パスから地域連携パスへ～医療と福祉の融合を目指して～」
相馬智加子 特定医療法人 フェニックス

進行形式：

5 名の演者には、2 部の趣旨を汲んで一人 7 分間でスライド形式での発表をお願いします。全員発表終了後、めざすチームプレイのあり方を会場の皆様と共に自由討論をしたいと思います。

座長：特定医療法人フェニックス 鶴沼中央クリニック 理事長 長縄伸幸

実践交流会 2 《看取り》

北館 103室

第1部 <13:40~15:10>

座長 松崎 百合子 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C2-1	独居末期癌患者の在宅での看取り ～患者の思いとサポート態勢～	小野隆宏	医療法人優心会 ハートク リニック
C2-2	グループホームにおけるターミナルケ ア・看取り介護の取組について	丹所かおり	株式会社 メデカジャパン
C2-3	「家族と共に施設で看取る」 ～施設に入っても家族を大切にしたい～	大口亜子	特別養護老人ホーム 愛知 たいようの杜
C2-4	腐りゆく足との共生 ～手術治療をしないという選択～	大場美江子	社会福祉法人せんねん村 特別養護老人ホームせんね ん村
C2-5	間質性肺炎患者終末期からの経験	林より子	医療法人坂梨ハート会 さ かなしハートクリニック
C2-6	安心・安楽な終末期を迎えるために ～私たちにできること～	菊池智子	医療法人エイチ・シー・ユー たけとみクリニック
C2-7	延命治療を拒否し、在宅で最期を迎えられ た ALS の方との関わり ～訪問リハビリを中心に～	大槻弥生	医療法人 啓友会 高槻う の花訪問看護ステーション
C2-8	死に方を見つめなおして	渡辺章文	公立みつぎ総合病院
C2-9	余命3ヶ月さらに1ヶ月を告知され、共に 家族、兄弟として苦悩と希望を持ち生きる 望みを貫いた ～影と輝きからの課題と提言～	白岩秀子	アサヒサンクリーン在宅介 護センター東海訪問入浴
C2-10	「家族と共に看取る」～どこにいても相談 できる心の寄りどころ～	伊東彰子	生活介護サービス株式会社 デイハウス ユーカリ新松 戸
C2-11	認知症夫婦世帯で在宅緩和ケアを行った 一事例	宮崎訓子	医療法人 菜の花会 菜の 花診療所

第2部 <15:20~17:30>

座長 桜井 隆 (理事)

テーマ

看取りのソーシャル・キャピタルの再構築
～在宅死、施設死、それぞれの場所での往生際の過ごし方をサポートする～

趣旨

在宅ケア、施設ケアの延長線上として往生際をサポートする医療、福祉スタッフは目の前の利用者を支える日常業務だけでなく、自分自身やすべての人にとずれる往生際について考えることも必要だろう。

病気や障害があっても住み慣れた地域の家で、施設で過ごして有終の美を飾る、そんな地域の文化、ソーシャル・キャピタルの再構築に我々医療、福祉スタッフがどう貢献できるか、そんな視座での議論をしてみたい。

進行形式

発表者、参加者全員で看取りについてのディスカッションができれば、と思います。フリートークの時間もはさんで、目標は全員でのテーブルディスカッション。

話の途中のつつこみ大歓迎、というスタイルで、あえて事前にテーマは絞らず、その時に一番話したいこと、聞きたいことを。

実践交流会 3 《認知症》

北館 104室

第1部 <13:40~15:10>

座長 伊藤 光保 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C3-1	グループホームにおける歯科の役割	小山亨	小山歯科クリニック
C3-2	毎日の食事を通して気づいた事	西野亨江	医療法人社団 萌気会 萌気園 グループホーム ふきのとう
C3-3	寝たきりの人が多くなったグループホームのあり方	西澤玲子	医療法人あづま会
C3-4	認知症ケアのできる入居者さん～入居者さん同士の関わりで気付かされたこと～	岩口美幸	医療法人社団都会 グループホーム一乗寺ほっこり庵
C3-5	ほっこり庵に来たひまわり ～重度化していくグループホームの中でAさんと一緒に過ごした4ヶ月～	上坊勝俊	医療法人 社団 都会 グループホームほっこり庵
C3-6	グループホームにおける夜間緊急体制の整備 ～利用者様が安心して生活できるために～	河元文子	中和会 グループホームときめき苑
C3-7	認知症高齢者の地域での役割	猪飼美花	社会福祉法人 自立共生会 ひかりの里
C3-8	強い物取られ妄想を持つAさんと地域のかかわりから	高橋順子	医療法人社団 松村クリニック やまもとヘルパーステーション
C3-9	やがわデイサービスセンター11 人目のスタッフ ～今を生きている(Aさんとの関わりの中から)～	坂本明子	医療法人社団つくし会新田クリニック やがわデイサービスセンター
C3-10	認知症利用者さんの解決すべき課題と援助について	桐本慎太郎	尾呂志リハビリ診療所
C3-11	私を変えてくれた一言	広瀬大輔	医療法人 宮田医院 ケアセンター桜づつみ
C3-12	塩酸ドネペジル中止によってADLが改善した10例—介護は介護のプロへ—	竹村真一	医療法人啓友会 介護老人保健施設 洛西けいゆうの里

第2部 <15:20~17:30>

座長 新田 國夫 (副会長)

- | | |
|---------|---|
| 1. テーマ | 私たちは認知症といかに向き合うか |
| 2. 趣旨 | 今回の認知症の発表演題の今問題となるテーマを抽出し、一部の発表者、座長とともにさらに議論を深めたい |
| 論点 | <ul style="list-style-type: none"> ①認知症になっても住み慣れた地域で生活するために ②BPSD に対する対応 ③身体合併症とその後の対応 |
| 3. 進行形式 | テーブルディスカッション |

実践交流会 4 <障がい児・者>

北館 105 教室

第1部 <13:40~15:10>

座長 柳澤 つや子 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C4-1	車両部設立後の効率状況について	山崎大吾	医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所新松戸
C4-2	障害児の多様な受け入れ方～老人デイサービス、認知症グループホーム、病児保育室での受け入れの工夫～	奥山智弘	社会福祉法人 自立共生会 くわなの宿
C4-3	地域生活支援への取り組みと課題 ～精神障害者グループホーム運営を通じて～	近藤佳奈	医療法人 静心会 桶狭間病院 藤田こころケアセンター
C4-4	「医療的ケア」のあるこどもと親が安心して学校に通うための課題～学校・在宅医・訪問看護・レスパイト、どうつながるべきか?～	向井まゆみ	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 / NPO ほっと・ステーションらら・訪問看護野の花ステーション
C4-5	「生きにくさ」を抱える人への支援の創造	石川恒	知的障害者更生施設かりいほ
C4-6	重症心身障がい児・者と家族が安心して在宅療養を行うために～19歳で重症心身障害者病棟から在宅療養へ移行した事例をとおして～	足達千鶴	医療法人 優心会 ハートクリニック
C4-7	訪問看護推進事業 医療型多機能サービス	中河亜由美	医療法人あいち診療会 あいち診療所野並
C4-8	精神障がい者に対しての地域生活支援～生活支援センター山中の実践から～	蛭川俊紀	社会福祉法人愛恵協会 生活支援センター山中
C4-9	笑顔で暮らしたい(自分らしく暮らしたい)～障害があってもありのままに暮らす～	加藤裕美	障害者地域生活支援センターひまわり
C4-10	介護保険利用を利用する精神障がい者の生活の構築まで	川本弓栄	(医)豊和会 地域生活支援センターエポレ
C4-11	精神障がいを抱える人々の地域生活	山崎尚樹	名古屋市障害者雇用支援センター

第2部 <15:20~17:30>

座長 宮坂 圭一 (理事)

飯島 恵子

趣旨

障がい者、児の社会参加を促すために、ここでは、・地域と障がい者のかかわり (夢をあきらめない、逆境を逆手に、障害者のパワーはすごい)、・障害者自立支援法後の問題点、解決策・障害者差別禁止法について話し合いたい。

演者

社会福祉法人桐鈴会	黒岩 秩子
社会福祉法人豊生ら・ぱるか	夏目 浩次
武蔵野市議会議員	斎藤 シンイチ
社会福祉法人愛信会 第二幸の実園	大和田 典克
社会福祉法人この街福祉会授産事業本部	野口 博之

進行方法

10分パワーポイントで発表、討論はテーブルディスカッション

なお、第1部の、石川恒さんにはディスカッションに入って頂ければと思います。

実践交流会 5 《口腔ケアと栄養管理》

北館 106 教室

第 1 部 <13:40~15:10>

座長 黒木 豊 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C5-1	通所介護（デイサービス）における口腔ケアの取り組み	奥野登美子	特定非営利活動法人 ゆうらいふ ゆうらいふデイサービス
C5-2	口から安全に少しでも食べれるようになるために～VFによる嚥下障害の評価～	前川剛伸	特定医療法人 フェニックス
C5-3	在宅生活を強く希望する患者へのアプローチ～口腔機能改善を通して～	境純子	医療法人社団 清心会 はるかぜ訪問看護ステーション
C5-4	管理栄養士による居宅療養管理指導の役割（実践を通じて）	吉廣ゆかり	なかざわ記念クリニック
C5-5	五感に響く食事 ～先行期をもっとも大切にしたい食事～	福宮智子	医療法人 あいち診療会 あざいリハビリテーションクリニック
C5-6	配食サービス利用者の栄養状態と食事支援についての報告	馬場 正美	コミュニティケアサービス (株) 配食サービスの大家食堂
C5-7	食事摂取意欲低下に対する個別対応	松井朋子	特別養護老人ホーム かわしまホーム
C5-8	便秘改善の取り組み	黒田千恵美	秋櫻醫院
C5-9	地域で取り組む食支援～第1報 介護現場の意識調査～	堀尾隆	新宿食支援研究会、専門学校 社会医学技術学院 理学療法学科
C5-10	地域で取り組む食支援～第2報 新宿食支援研究会の活動から～	篠原弓月	新宿食支援研究会、ふれあい歯科ごとう
C5-11	地域で取り組む食支援～第3報 食支援グループ「ハッピーリーブス」の活動から～	安田淑子	食支援グループ「ハッピーリーブス」、新宿食支援研究会、ふれあい歯科ごとう

第 2 部 <15:20~17:30>

座長 加藤 武彦 (理事)

趣旨：

モアブラシによる咽頭ケア
吸引カテーテルでは、吸引されない「固形化した痰」を湿潤させて、黒岩恭子開発のモアブラシで痰を絡め取るテクニック。
これにより呼吸が楽になります。“痰吸引のブラックボックス”。

進行形式：

黒岩恭子によるレクチャー 20 分の後、会場の皆様とディスカッションしたいと思います。

実践交流会 6 《ケアマネジメント》

～ケアマネジメントを超えて～

北館 107 教室

第 1 部 <13:40～15:10>

座長 石垣 夫美代 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C6-1	iPad を利用した診療支援及び患者教育用ツールの試み	遠矢純一郎	医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック
C6-2	障害者自立支援法事業(基準該当生活介護)と職親事業の現状～社会資源活用の取り組み～	竹内伸全	ハーブ内科皮フ科在宅医療 介護センター
C6-3	認知症の独居の方が転居したら・・・??? ケースを地域で支えるには	中村紀雄	ケアセンターかたかご
C6-4	要支援者の介護予防を考える	田中大造	森本外科・脳神経外科医院
C6-5	無床診療所での在宅支援リハビリテーションの取り組み	井手浩信	医療法人社団 清心会 リハビリ事業部
C6-6	「歩く」って素晴らし!ー 自分の足で地面を踏みしめる喜びー	八代望美	生活介護サービス株式会社 特定施設入居者生活介護 はなみずき
C6-7	”押し寄せる不安・・・”	高橋真理子	医療法人社団 松村クリニック やまもとケアプラン サービス
C6-8	サービス事業所を持たない診療所併設型居宅介護支援事業所のできる～家族の意向をかなえる在宅での看取りの事例から～	新保努	上村医院介護支援室
C6-9	通所介護(デイサービス)における個別機能訓練のあり方	津田征志	特定非営利活動法人 ゆうらいふ ゆうらいふデイサービス
C6-10	「うさぎ」と「男のサガ」～好みを知るのも技術の一つ、上手な好みの活用術～	柴本純子	医療法人大和会 指定居宅介護支援事業所ヤード
C6-11	認知症患者の通所サービス導入にむけて訪問看護の介入	安藤貴子	医療法人 あいち診療会 あざい訪問看護ステーション

第 2 部 <15:20～17:30>

座長 金田 弘子 (理事)

森本 益雄 (理事)

《テーマ》

安心社会の実現に向けて、私たちのできること
～ケアマネジメントからみた地域ケアのあるべき姿～

《第二部の趣旨》

これからの医療と福祉、介護の行方は「一人ひとりが安心できる社会の実現である」という観点から議論を深めることを目的とする。

《進行形式》

①ゲストスピーカー(山口和之氏)からの問題提起を受け、②座長が会場参加者の発言も交え、議論を広げていく討論会形式とする。

《発表者》

座長：森本益雄・金田弘子(医療法人社団もりもと 森本外科・脳神経外科医院)
講師：山口和之(民主党衆議院議員)

実践交流会 7 《訪問&通所サービス》

北館 201 教室

第1部 <13:40~15:10>

座長 竹内 秀俊 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C7-1	通所リハビリにおける脳活性化を目的としたグループ訓練の試み	蒔田節子	医療法人あづま会 大井戸診療所
C7-2	連絡帳を活用した、家族との連携	中藪小百合	医療法人大和会 ハートフルクリニックデイケアセンター ひまわり
C7-3	入浴がたいへん ～着眼点をかえて見て～	伊藤奈央子	医療法人 創建会 ウエルネス医療クリニック デイケアセンター
C7-4	デイサービスに求められるもの一看護師の視点から学んだこと一	小林美紀	医療法人 社団 都会 西賀茂デイサービスセンター
C7-5	笑顔が絶えない雰囲気作りを目指して～ボランティアの受け入れについて～	大西寛	株式会社 ジョイフルライフ デイサービスセンター つるさん・かめさん
C7-6	『生きがいを取り戻す意味も含めた通所リハビリテーションの役割』	石糸剛	医療法人 中和会 中西医院
C7-7	「また歩けるようになって、温泉！お花見！に行こう」ある糖尿病性神経障害者の車いす生活からの脱出ー	今村大泉	医療法人坂梨ハート会 さかなしハートクリニック
C7-8	重度要介護者の在宅生活継続に関する一考察	遠矢幸文	医療法人坂梨ハート会 さかなしハートクリニック
C7-9	多くの合併症を持つ透析患者である妻と妻を支える夫との関わりについて (訪問看護師の役割)	藤原康代	ハーブ内科皮フ科在宅医療介護センター
C7-10	訪問看護ステーションと訪問介護ステーションを同時に運営するメリット	青木麻里子	株式会社まりつく 訪問看護ステーションまりつく 訪問介護ステーションまりつく
C7-11	訪問看護師のマルチタレント化	木暮雅美	医療法人あづま会 大井戸診療所

第2部 <15:20~17:30>

座長 岡崎 和佳子 (理事)

<p>テーマ ケアは自分づくり、他人づくり、組織づくり、そして、趣旨 第一部の11名の発表者は日々の実践の中で苦労した事や工夫した事、感動を得られた事などを発表されます。 内訳は訪問サービスの発表が5名、通所サービスが6名です。私たちの仕事は対人援助でその労働は感情労働といえます。 利用者の多様な価値観を受け入れ、寄り添う援助は苦労の実践そのものであると思います。実践の中で自分や他者が成長できます。 第一部の発表者も含めて、二部では他者へ援助について「共感」や「傾聴」などの視点もとり入れ、ケアの中身の振り返りをしたいと思います。 自らの感情に振り回される事なく、楽しいケアの実践ができる事を考える場としましょう。 進行形式 全員参加型での話し合いを検討 発表者 参加者の中でその時に！</p>

実践交流会 8 《在宅生活の継続》

～様々な工夫～

北館 202 教室

第1部 <13:40～15:10>

座長 村居 多美子 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C8-1	アルコール依存のある独居男性との関わりで ～生きる気力を失ったK氏と向き合って～	東野一美	渡辺西賀茂診療所居宅介護支援事業所
C8-2	慢性心不全の終末期の看護にあたって	山内明美	医療法人坂梨ハート会 さかなしハートクリニック
C8-3	小規模多機能型居宅介護を診療所に併設して「医療と介護を連携し、最後までご本人とご家族を支える」を理念とする星のその後	中川修吾	医療法人 創建会 ウエルネス医療クリニック
C8-4	住み慣れた地域での暮らしを支える	武村園	社会福祉法人 秦ダイヤライフ福祉会 小規模多機能ホームあざみの荘
C8-5	新たな小規模多機能型居宅介護の役割を求めて ～多職種協力の看取りとケアハウスへの新たな取り組み～	磯部薫	特定医療法人 フェニックス
C8-6	在宅復帰からのフィードバック～在宅復帰者に対するリハアプローチについて追跡調査を通して考える～	谷口啓子	リハビリセンター大村
C8-7	望まれている在宅支援の方向性～家族介護の支援と尊厳を守るケアのありかた	真鍋智美	全国訪問ボランティアナースの会 キャンナス札幌
C8-8	訪問看護の充実こそ、在宅生活の継続～何故、訪問看護ステーション設立に人員規定が必要なの？	上田浩美	有限会社 ぼけっと
C8-9	暮らしのいろいろを伝えあう	加藤圭子	明日の在宅福祉を考える会
C8-10	宅老所でのターミナルケア	西田京子	NPO 法人 たすけあい佐賀
C8-11	家に帰りたい ～在宅復帰に向けてのアプローチ～	熊木 智実	医療法人 財団善常会老人保健施設シルピス大磯

第2部 <15:20～17:30>

座長 金井 秀樹 (理事)

《テーマ》

在宅生活継続のために、「宅老所」が重要な役割を担う。

～「宅老所」のシステムと役割～

《第二部の趣旨》

在宅生活を継続していくために、様々なシステムや施設・サービスが提唱され、利用されてきている。その中で、現在、名古屋ではまだ認知度が低いと言われている「宅老所」について、「宅老所を全国に広める会」の西田京子氏、近藤明美氏のお二人に30分ずつ現場のお話をご報告頂き、質疑や討論の中で、他の施設・サービスやシステムとの違いを検証し、その役割を知る機会としたい。

《進行形式》

パネルディスカッション形式

《パネラー》

西田京子 「宅老所を全国に広める会」代表 ・ NPO たすけあい佐賀 (佐賀市) 代表

近藤明美 「宅老所を全国に広める会」役員 ・ NPO おひさまくらぶ (仙台市) 代表

《司会》 村居 多美子

《座長》 金井 秀樹

実践交流会 9 《サービスの質の向上》

(独立行政法人福祉医療機構先進的・独創的活動支援事業)

北館 203 教室

第 1 部 <13:40~15:10>

座長 山田 圭子 (第 8 部会研究委員)

樋口 京子 (第 8 部会研究事業協力者)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C9-1	意味性認知症を持つ利用者さんの受け入れから 4 年を経て ～『デイに行くことを習慣化させる』からのスタート～	河内山裕子	医療法人大和会 デイサービスセンター 秦いきいき学校
C9-2	職員の離職によるサービスの低下を防ぐ取り組み	松田英樹	医療法人大和会 グループホーム 秦いきいき学校
C9-3	「もういけん」が口癖の A 氏への支援	伊藤沙織	医療法人社団 もりもと デイサービス 鈴ヶ野
C9-4	施設での暮らしを支える ～リスクマネジメントの視点から～	田所佐理	社会福祉法人 秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホーム あざみの里
C9-5	『魅力あるグループホームをつくるために』～自分達で築きあげて～	森田雅彦	医療法人 啓友会 グループホーム めぐみ
C9-6	認知症高齢者の日常生活の脳活性化リハの評価について～KOMI チャート、センター方式 A2、MMSE、MOSES、(DCM)～	水谷時子	社会福祉法人 自立共生会 くわなの宿
C9-7	これでいいのか？脱マンネリ化 ～気づきメモの活用～	辻恵美	グループホーム 秋櫻
C9-8	デイでの忘れ物をなくす取り組み	石原弘子	医療法人 あいち診療会 あいち診療所 野並
C9-9	片麻痺利用者パークゴルフの会の支援を通して経験したこと～利用者が自主性を持った活動をしていくために～	二階堂静	日高見中央クリニック
C9-10	より良いコミュニケーションを目指して～回想法・学習療法を通じて生まれた“絆”～回想法・学習療法 デイサービス	横山せつ子	ハープ内科皮フ科在宅医療 介護センター 通所介護
C9-11	ファイト！アタック！トライ！ ～認知障害をあきらめない～	金澤淑子	有限会社 菜の花 菜の花ヘルパーステーション

第 2 部 <15:20~17:30>

座長 桑原 由次 (理事, 第 8 部会委員長)

山田 圭子 (第 8 部会研究委員)

樋口 京子 (第 8 部会研究事業協力者)

厚生労働省より活動委託費を得た「市民目線の事業所評価システム研究・開発事業」は今年 2 年目を迎えました。今年度の調査活動は、昨年の実績を踏まえ、居宅介護支援事業、特にケアマネージャーに焦点を当てることとなりました。その理由として、ケアマネージャーが個別介護計画の要であること、また、居宅介護支援を評価することにより、全体のサービスへの評価へとつながること、そして各種サービスを客観的に点検する立場にあり、これを点検できれば、個別の介護保険事業の全体像が把握できること等があげられます。

今回、全国各地から選りすぐった先進的な取り組みを行っている居宅介護支援事業所から、様々な事例や、現在抱えている課題など、現場の実践発表を伺います。そして、どのようなポイントが有用かを導き出すなど、参加型の忌憚ない討論の場にします。

実践交流会 10 《新しい取り組み》
(モデル事業も含まれる)

北館 204 教室

第 1 部 <13:40~15:10>

座長 小山 由紀江 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C10-1	訪問看護ステーション開設の実現、つかの間の喜びと 2.5 人人員基準に悩む日々	玉谷弘美	株式会社ハートナース 訪問看護ステーション 絆
C10-2	在宅医療の事務職員の役割	堤咲子	医療法人 エイチ・シー・ユーたけとみクリニック
C10-3	いりろい庵デイサービス・訪問看護ステーションとの連携	野瀬真孝	医療法人 あいち診療会 グループホームいりろい庵
C10-4	ショートステイでの“事故ゼロ”を目指す～ご利用者に本当の“安心”を届けるために～	木山智香子	医療法人 社団都会 渡辺西賀茂診療所 ショートステイにしがも
C10-5	誰もが主役 ～自主性を引き出すデイケアを目指して～	昆友香	日高見中央クリニック オアシス
C10-6	レモン館の取組み ～子育て支援ワンストップ幼老統合ケア施設として～	伊藤和秀	医療法人創健会 ウエルネス医療クリニック
C10-7	いい湯だな～午後入浴の取組み～	小林忍	萌気園 さくり温泉デイサービスセンター
C10-8	特養で働く理学療法士	小林篤史	社会福祉法人 せんねん村リハビリテーション科
C10-9	医療生活協同組合における参加型安全衛生活動	三橋徹	ひまわり医療生活協同組合 田島診療所
C10-10	楽しむことから始まる、体も心も動く卓球リハビリ～老人保健施設における試み～	山田美穂	特定医療法人フェニックス
C10-11	その人らしく生きる～回想法を取り入れた関わり方を通して～	下田亜希子	医療法人社団つくし会新田クリニックデイケア

第 2 部 <15:20~17:30>

座長 黒岩 卓夫 (会長)

趣旨：

第 10 部会の共通テーマは“新しい”ということです。では何が新しいのか、新しいが故のチャレンジ精神、喜び、また苦労時には失敗も伴う理念や実践を共有したということです。全く新しい試み、今迄この実践交流会に提案されなかったものの新しさあるいは法人にとって新しい試みであってもよいと思います。そこで次の 3 つの演題を俎上に乗せ、テーブルディスカッション（方式）をとりたいと思います。

発表者：

- ・「在宅医療の事務職員の役割」
堤咲子 医療法人エイチ・シー・ユーたけとみクリニック
- ・「ショートステイでの“事故ゼロ”を目指す ～ご利用者に本当の“安心”を届けるために～」
木山智香子 医療法人社団都会渡辺西賀茂診療所 ショートステイにしがも
- ・「そのひとらしく生きる ～回想法を取り入れた関わり方を通して～」
下田亜希子 医療法人社団つくし会新田クリニックデイケア

第二部の各演者の持ち時間は、発表討論入れて 30 分とする。10 分発表時間とすれば 20 分が討論にあたる。その上で残った約 30 分を総合討論とする。

総合討論は 3 テーマを中心としつつも、他の演題に触れてもよい。

ただし、新しい試みへのこだわりを共通として討論を進めたい。

実践交流会 11 《市民/多職種による地域活動》

北館 205 室

第 1 部 <13:40~15:10>

座長 権田 吉儀 (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C11-1	地域猫活動と在宅介護	富田恵美子	相生地域猫の会
C11-2	「一人暮らしの認知症高齢者を支えるために」～在宅療養支援拠点としての役割を考える～	伊原由紀	春日クリニック
C11-3	「一人暮らしあんしん電話」－3年間の実践報告(第4報)	堂垂伸治	医)緑星会 どうたれ内科診療所/千葉大学医学部臨床教授
C11-4	～行きたい場所がある会いたい人がいる～地域の中でゆるやかにお互い様で老いを支える“街中サロン”から	堀内陽子	NPO 法人ゆいの里 街中サロンなじみ庵
C11-5	通所ケアと地域社会資源の活用	尾崎宏之	森本外科・脳神経外科医院
C11-6	法人の行う地域活動への参加を通じてホーム入居者の生活領域の拡大を図る	山岡雄一	社会福祉法人 秦ダイヤライフ福祉会 有料老人ホーム馴染み横丁
C11-7	老人デイサービスでの自立支援者受け入れについて	西澤照代	(株)ハーブライフケア ハーブデイサービスセンター
C11-8	まだまだ自分は、できる！－自ら卒業宣言したデイケアご利用者の実話－	山田貴一	大泉はなわクリニック デイケア かたかごの花
C11-9	地域活動の一つとしての筋トレ体操の実践	堀田幸菜	医療法人 あいち診療会 あざいリハビリテーションクリニック
C11-10	からだの中からキレイになる！	小野澤美紀	医療法人社団 萌気会 二日町診療所 栄養調理室
C11-11	学習療法への取り組み～年をとっても楽しく頭を使い続けたい～	本多志織	(株)ハーブライフケア グループホーム ハーブゆいまある
C11-12	グリーンケアから学ぶもの	森田文子	豊橋市医師会訪問看護ステーション

第 2 部 <15:20~17:30>

座長 中嶋 啓子 (副会長)

<p>テーマ 住み慣れた地域で最後まで暮らしを継続する為に</p> <p>趣 旨 今回の発表演題は多岐にわたっているうえの一つ一つがとても重要なので、大きく4つに分けて討論したい。できるだけ参加者全員が質問や、発言ができるように討論を組織したい。切り口を変えて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、一人暮らしを支える地域とは 2、市民参加の在宅ケアとは 3、地域で看取るために必要なこと 4 多職種協働はうまくいっているか <p>進行形式 上の4つの軸を織り込んで「住民参加型医療を進めた24年」として、中嶋啓子が発表15分して、その後テーブルセッションに切り替え全員が発言できるように討論したい。もし参加者が80人なら10人テーブルで8組と、10人一組で全員が発言討論し(約1時間)討論終了後各テーブルから5分前後で報告をお願いし、最後中嶋がまとめ終了としたい</p>
--

実践交流会 12 《研究&教育》

北館 206 教室

第 1 部 <13:40~15:10>

座長

角谷 あゆみ (名古屋大会実行委員)

発表順番	演 題	発表者	施設名
C12-1	あおぞら診療所高知潮江の職員教育について	佐々木友明	医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所高知潮江
C12-2	在宅看護論実習における5年間の看護技術の経験状況	熊野こう	愛知県立総合看護専門学校
C12-3	活動楽しい?? ~通所リハビリでの活動のあり方~	伊藤正明	医療法人マックス 通所リハビリテーション おあしす
C12-4	傾聴の6年間を振り返って~傾聴は「話す人」も「聴く人」にも変化をもたらす~	丸山さよ子	医療法人社団萌気会 萌気園老人ホーム「すみれ草」
C12-5	泡よくば・・・	廣島晶江	医療法人マックス ケアシス訪問入浴ステーション
C12-6	在宅療養者の睡眠把握と有用性についての検討	沼田美幸	社団法人 日本看護協会
C12-7	民家改修型福祉施設への縦割り行政許認可から連携調査指導へ	中井佐保子	ウエルネスグループ 社会福祉法人 自立共生会 グループホームくわなの宿
C12-8	日本中に星降るほどの訪問看護ステーションを!!	菅原由美	開業看護師を育てる会
C12-9	訪問看護師が保証する訪問介護の医療的ケア	水野敏江	医療法人あいち診療会 のなみ訪問看護ステーション

第 2 部 <15:20~17:30>

座長

山口 晴保

(理事)

《第二部の趣旨》

研究に関する幾つかのテーマを皆で議論したいと思います。

- ①研究のエビデンスとは? エビデンスのレベルを知る、
- ②対照群とランダム化対照試験の必要性、
- ③アウトカム指標とその選び方、
- ④研究に必要な統計手法 などを皆で議論しながら学びたいと思います。

《進行形式》

まず、座長の山口が研究方法入門レクチャーをします(20分)。
その後、①介入研究、②調査、③アクションリサーチに分けて、
各演題を研究技法から振り返り、演者と参加者で議論・提案します。
第1部と同じスクール形式です。

《発表者》

山口晴保(座長) 群馬大学医学部保健学科・教授
「研究技法入門：研究のエビデンス、アクションリサーチ、統計ソフト」